

算数科 1年 年間指導計画

◇ 1学期

1. なかまづくりとかず

〔指導時数〕 11時間

- 【単元の目標】**
- 10までの数について、個数の数え方や数の読み方、書き方、数の構成などを理解し、数を用いることができるようにする。
 - ㊦ 観点や条件に応じて意欲的に集合をつくったり、1対1対応のよさに気づいて、数量の多少を比べたりしようとする。
 - ・ 数で表すことのよさに気づき、身の回りの具体物の個数を進んで数えたり数字で表したりしようとする。
 - ㊧ 1対1対応を用いて、集合の要素の個数の表し方や比べ方を考え、言葉やブロックなどを用いて表現することができる。
 - ㊨ 観点や条件に応じてものの集合をつくり、要素の個数を比較することができる。
 - ・ 10までの数について正しく数えることができ、数字を読んだり書いたりすることができる。
 - ㊩ 集合の要素の個数について1対1対応による比較の仕方を理解する。
 - ・ 10までの数についてその数え方、数字の読み方や書き方を理解する。

☆考えて欲しいこと ★考え方

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
1	○いろいろな観点や条件に応じて集合をつくったり、1つの集合に対して、その集合の観点や条件を考えたりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵を見て自由に話し合いながら、同じ条件の集合に着目する。 ・ 観点や条件に応じて集合をつくる。 ・ 集合の要素を示し、それがどんな観点や条件の集合か考える。 ・ 絵の中のものの位置や方向について話し合う。 ・ 身の回りの具体物について集合づくりを行う。 <p>☆ブタさんが前の方で並んでいる。 ☆ブタさんの前にイヌさんが並んでいる。 ☆机の間にキツネさんが並んでいる。など</p>	<p>㊦動物の種類や立っている場所など、いろいろな観点や条件に応じて集合をつくろうとしている。</p> <p>㊧観点や条件が同じ集合をつくることができる。</p>
2	○集合の要素の個数の多少を1対1対応の方法で比べることができ、数が同じ、違う(多い、少ない)などの意味を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ タヌキと傘などの数の多少を線で結んで比較する。 ・ 直接対応できない2つの集合の要素の個数について、比較の方法を考える。 ・ 媒介物(ブロック)を用いて比較する。 ・ 数量の相等、多少の意味を考える。 <p>★線で結ぶ。★数を数える。 ☆花の方が多い。☆チョウは花より少ない。 ☆変えると葉っぱは同じ数。など</p>	<p>㊦1対1対応をすれば、各々の個数を数えなくても数の相等、多少の比較ができるよさに気づき、2つの集合の要素の個数を比べようとしている。</p> <p>㊧1対1対応の操作を通して、2つの集合の要素の個数の比べ方を考え、言葉や半具体物を用いて説明している。</p>
3	○数量の大きさを表す「いち」「に」…「ご」の数詞と、「1」「2」…「5」の数字が対応していることを知り、1～5個のものの数を数えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ p. 8～9の絵を見て、いろいろな集合を見つけ、要素の個数に着目する。 ・ 同じ個数の集合を見つけ、「いち」「に」…「ご」の数詞を対応させる。 ・ 各要素の数や数図に「1」…「5」の数字を対応させる。 ・ 具体物を数える練習をする。 <p>☆ライオン先生と指揮台、指揮棒も1つ。 ☆スズメもほしも4つ。 など</p>	<p>㊦数詞と要素を1対1対応させて個数を数で表すことのよさに気づき、いろいろなものの数を数えようとしている。</p> <p>㊧数詞と要素の1対1対応で、末尾の数詞が要素の個数を表していることを理解している。</p>

4	○1～5の数字の書き方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・1～5の数字の書き方を知り、数字を書く練習をする。(p.10) ・p.11の絵を見て、数量を数えて数字を書く。また、黄色い車が2つと青い車が1つで、車は3つ」などのように、集合を色や位置などで表す。 <p>☆えんぴつは5本。 ☆赤い帽子が3つと白い帽子が2つで5つ。</p>	図1～5の数字を書くことができる。
5	○1～5の数について、具体物、半具体物、数図、数字、数詞を相互に関連づけることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・1～5の数について、具体物、半具体物、数図、数字、数詞を互いに対応させる。(p.12上段) ・1～5の数について、p.12下段の線結びを通して、具体物、半具体物、数図、数字を相互に関連づける。 ・ブロックを用いて、5を様々な形で表し、数の多様な見方にふれる。 ・1から5の数を、具体物と数字で表す。 	<p>図具体物、半具体物、数図、数字、数詞を互いに対応させる活動を通して、それらがすべて同じ数を表していることを考え、説明している。</p> <p>図半具体物、数図などを用いた数の表し方を理解している。</p>
6	○数量の大きさを表す「ろく」「しち」…「じゅう」の数詞と、「6」「7」…「10」の数字が対応していることを知り、6～10個のものの数を数えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・p.14～16の絵を見て、いろいろな集合を見つけ、要素の個数に着目する。 ・同じ個数の集合を見つけ、「ろく」「しち」…「じゅう」の数詞に対応させる。 ・各要素の数や数図に「6」…「10」の数字に対応させる。 ・具体物を数える練習をする。 <p>☆おだんごも9。 ☆タイヤが10。など</p>	<p>図数詞と要素を1対1対応させて個数を数で表すことよさに気づき、いろいろなものの数を数えようとしている。</p> <p>図数詞と要素の1対1対応で、末尾の数詞が要素の個数を表していることを理解している。</p>
7	○6～10の数字の書き方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・6～10の数字の書き方を知り、数字を書く練習をする。(p.18) ・p.19の絵を見て、数量を数えて数字を書く。また、「赤い花が1つと白い花が5つで、花は6つ」などのように、集合を色や位置などで表す。 <p>☆白いイヌが3、黒いイヌが3で6。など</p>	<p>図6～10の数字を書くことができる。</p> <p>図10個までのものの数を数えることができる。</p>
8	○6～10の数について、具体物、半具体物、数図、数字、数詞を相互に関連づけることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・6～10の数について、具体物、半具体物、数図、数字、数詞を互いに対応させる。(p.20上段) ・6～10の数について、p.20下段の線結びを通して、具体物、半具体物、数図、数字を相互に関連づける。 	<p>図具体物、半具体物、数図、数字、数詞を互いに対応させる活動を通して、それらがすべて同じ大きさを表していることを考え、説明している。</p> <p>図半具体物、数図などを用いた数の表し方を理解している。</p>
9	○ものの個数を、条件や観点に応じて集合別に数えて整理して表したり、それらの特徴を読み取ったりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・p.21上の絵を見て、それぞれの動物ごとの数だけ、教科書の絵に色をぬる。 ・色をぬった絵を見て、数量の特徴を読み取る。 ・それぞれの動物の数を数字で表す。 <p>☆ならべると分かりやすい。</p>	<p>図ものの個数を集合別に数えて整理したり、個数の多少を比べたりすることができる。</p>

10	○1～10の数について、大小を比較することができ、その系列を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・数図カードや数カードによる数の大小比較をする。 ・1個～10個の、少ない順に並んだブロックを見て、それぞれのブロックの数を数字で書く。 ・数カードによる数の大小比較を基に1～10までの数字を並べる。 <p>☆ブロックを並べると坂道みたい。 ☆階段になっている。 ☆1つつ増えている。</p>	<p>図数図やブロックなどを手がかりに、数の大小を比較することができる。</p> <p>図数の系列は、数の大小に基づいて決まっていることを理解している。</p>
11	○1つもないことを0と表すことを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・輪投げの結果を見て、0という数について知る。 	<p>図具体的場面に即して、1つもないことを「れい」といい、「0」と書くことを理解している。</p>

*** こえに だして いおう！！ 上p. 25 1時間**

1	○10までの数の系列について多面的にみるができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・大きい数から小さい数の順に唱えたり、途中の数から唱えたり、2ずつ交互に唱えたりする。 	<p>図進んで声に出して言おうとするなど、意欲的に活動に取り組んでいる。</p> <p>図10までの数の系列について大きい数から唱えたり、途中から唱えたり、様々な方法で唱えることができる。</p>
---	---------------------------	---	--

2. なんばんめ

〔指導時数〕 2時間

- 【単元の目標】**
- 数を用いてももの順序を正しく表すことができるようにする。
 - 関・順序を数を用いて表せることよき気づき、それを生活の場で活用しようとする。
 - 考・数を順番や順序も表すものとしてみるができる。
 - 技・数を用いて順序や位置を表すことができる。
 - 知・数を用いると順序や位置を正確に表せることを理解する。

☆考えて欲しいこと ★考え方

時	目標	学習活動	おもな評価規準
1	○数は順序や位置を表す際にも用いられることを知り、前後に関わる順序の表し方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・徒競走の順位を、数を用いて表す。 ・綱引きの絵を見て、前後に関わる順序を数で表す。 ・集合数と順序数の違いを意識しながら、p. 27下段の色をぬる。 ・教室の中にあるものなど、身近な具体物を使って、順序や位置を数を用いて表す練習をする。 <p>☆「め」とつくとひとつだけだ。</p>	<p>図徒競走の順位や綱引きの並び順などの具体的な場面に即して、順序や位置を表すのに、数を用いようとしている。</p> <p>図集合数と順序数の違いを理解している。</p>
2	○上下、左右に関わる順序の表し方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・p. 28の黒板に貼った果物の絵を見て、上下に関わる位置を数で表す。 ・p. 28の机の上のものを見て、左右に関わる位置を数で表す。 	<p>図順序や位置を数で表すには、基点を決める必要があることをとらえ、言葉などを用いて説明している。</p> <p>図数を用いて、上下、左右に関わる順序や位置を表すことができる。</p>

- 【単元の目標】 ○ 10までの数の構成を理解し、数を多面的にみることができるようにする。
- 関 ・ 1つの数を他の数を用いていろいろな組み合わせを考えて表そうとする。
- 考 ・ 10までの数について、1つの数を他の2つの数の和や差としてとらえ、言葉や半具体物などを用いて表現することができる。
- 技 ・ 10までの数の合成、分解ができる。
- 知 ・ 10までの数の構成を理解する。

☆考えて欲しいこと ★考え方

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
1	○5の構成を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> おはじきを用いた活動を通して、5はいくつといくつに分けられるか考える。 5の構成をまとめる。 ☆赤と青が混ざっていても5になる。 ☆ブロックをきれいに並べると赤と青が三角になっている。 ☆ブロックをきれいに並べると赤が上から下へ増えていって、青は減っていく。(反対になっている。) 	<ul style="list-style-type: none"> 関5の構成に関心をもち、おはじきなどを用いていろいろな組み合わせを考えようとしている。 関5の構成を理解している。
2	○6の構成を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> おはじきを用いた活動を通して、6はいくつといくつに分けられるか考える。 6の構成をまとめる。 ・ p. 31の上段のような活動に取り組む。 ☆隠しているおはじきと見えているおはじきを合わせて6になる。 ☆ブロックをきれいに並べると黄色と白が三角になっている。 ☆ブロックをきれいに並べると黄色が上から下へ増えていって、白は減っていく。(反対になっている。) ☆5のときと同じだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 関おはじきなどを用いて、6の合成、分解ができる。 関6の構成を理解している。
3	○7の構成を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> おはじきを用いた活動を通して、7はいくつといくつに分けられるか考える。 7の構成をまとめる。 ・ p. 32の上段のような活動に取り組む。 ☆隠しているおはじきと見えているおはじきを合わせて7になる。 ☆ブロックをきれいに並べると黄色と白が三角になっている。 ☆ブロックをきれいに並べると黄色が上から下へ増えていって、白は減っていく。(反対になっている。) ☆前のときと同じだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 関おはじきなどを用いて、7の合成、分解ができる。 関7の構成を理解している。
4	○8の構成を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 数カードを用いた活動を通して、8の構成を考える。 8の構成をまとめる。 ・ p. 33の上段のような活動に取り組む。 ☆ブロックをきれいに並べると黄色と白が三角になっている。 ☆数を並べると左が上から下へ増えてい 	<ul style="list-style-type: none"> 関おはじきなどを用いて、8の合成、分解ができる。 関8の構成を理解している。

		て、右は減っていく。(反対になっている)。 ・ ☆前のときと同じだ。	
5	○9の構成を理解する。	・ 数カードを用いた活動を通して、9はいくつといくつに分けられるか考える。 ・ 9の構成をまとめる。 ・ p. 34の上段のような活動に取り組む。 ☆ブロックをきれいに並べると黄色と白が三角になっている。 ☆数を並べると左が上から下へ増えていって、右は減っていく。(反対になっている)。 ☆前のときと同じだ。	図おはじきなどを用いて、9の合成、分解ができる。 図9の構成を理解している。
6	○10の構成を理解する。	・ 数カードを用いて、10の構成や10に対する補数を考える。 ・ 10の構成をまとめる。 ・ ブロックを用いて、10の構成や10に対する補数について習熟する。 ・ p. 36のような活動に取り組む。 ☆ブロックをきれいに並べると黄色と白が三角になっている。 ☆数を並べると左が上から下へ増えていって、右は減っていく。(反対になっている)。 ☆どの数でも同じだ。	図10を他の2つの数の和や差としてみて、10の合成、分解をすることができる。 図10の構成を理解している。
7	○10の構成の理解を確実にする	[やってみよう] ・ p. 37上段の、10に対する補数を言う活動に取り組む。 ・ p. 37下段の、10を合成する活動に取り組む。	図10に対する補数を考える活動を通して、10を多面的にみて表現している。 図10に対する補数を求めることができる。

4. あわせていくつ ふえるといくつ

[指導時数] 6時間

【単元の目標】 ○ 加法の意味と和が10以内の加法計算の仕方を考え理解し、確実にできるようにするとともに、それを用いることができるようにする。

関 ・ 日常の事象から合併や増加の場面を見出し、式に表すよさに気づき、加法を適用しようとする。

考 ・ 合併や増加などの場面を、どちらも加法の関係として関連づけてみるができる。

・ 和が10以内の加法計算の仕方を1位数の構成に着目して考えたり、操作によって表現したりすることができる。

技 ・ 和が10以内の加法計算が確実にできる。

知 ・ 合併や増加の場面など、加法が用いられる場合について知り、加法の意味を理解する。

☆考えて欲しいこと ★考え方

時	目標	学習活動	おもな評価規準
1	○2つの数量の合併の場合について、加法の意味や、式の表し方を理解する。	・ じょうろを棚にしまっている絵や、ペンをペン立てに入れている絵を見て、2つの集合を合わせる場面であることをブロック操作で表す。 ・ 金魚を水槽に入れている絵を見て、合併の場面であることを確かめ、その和の求め方について考える。 ・ ブロック操作で合併の場面を表す。	関 日常の事象から合併の場面を見出して、ブロック操作を通して加法の式に表そうとしている。 関 合併の場合について、加法の意味や式の表し方を理解している。

		<ul style="list-style-type: none"> ・合併の場面を加法の式に表す。 ・用語「たしざん」を知る。 	
2	○数量の増加の場合について、加法の意味や、式の表し方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・じょうろを棚にしまっている絵や、ペン立てに入れている絵を見て、もともとあったものに後から加えて増やす場面であることをブロック操作で表す。 ・金魚を水槽に入れている絵を見て、増加の場面であることを確かめ、加法の式に表す。 ・増加の場面を加法の式に表す。 ☆「みんなで」「全部で」「合わせて」どれもたしざん。 ☆ブロックを真ん中に動かすと答えが分かる。 	<p>図増加の場面を、加法の関係として合併の場面と関連づけてとらえ、ブロック操作や言葉などで表現することができる。</p> <p>図増加の場面を加法の式に表すことができる。</p>
3	○和が10以内の加法計算ができる。 ○文章題の解決を通して、加法の意味理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・和が10以内の加法計算をする。 ・問題文を読み、合併や増加の場面をとらえ、立式、解決をする。 	図問題文から合併や増加の場面を読み取り、加法の立式をして問題を解決することができる。
4	○加法の計算能力を伸ばす。	<ul style="list-style-type: none"> ・計算カードを使って、和が10以内の加法計算の練習をする。 ・被加数と加数の並び方を見て空欄のカードを考えたり、同じ答えのカードを探したりする。 ☆縦に見ると、後ろの数がどんどん大きくなる。 ☆横に見ると、前の数がどんどん大きくなる。 ☆斜めに見ても、後ろの数がどんどん大きくなる。 ☆1 + 1 から斜めに見ると前も後ろも同じ数。 ☆前の数が1のたしざんが多くて、2, 3, 4…になるとたしざんの数がへる。 ☆階段の反対になっている。 ☆横でも縦でも答えが1ずつ大きくなる。 ☆同じ答えのカードが斜めに並んでいる。 	図和が10以内の加法計算が確実にできる。
5	○0を含む加法の計算の意味を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・2回の玉入れゲームの合計を求める場面を、0を含む加法の式に表す。 ・0を含む式から、玉入れゲームの結果を考えて図に表す。 	<p>図加法の式から、玉入れゲームの玉の入り方を読み取って図に表現することができる。</p> <p>図0を含む場合も加法の式に表せることを理解している。</p>
6	○問題づくりによる式の読みを通して、加法の意味理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・p.46の絵を見て、いろいろな観点で合併や増加の場面をとらえ、5+3の式に合う問題をつくる。 ・[やってみよう] 加法の場面を式と絵で表し、発表する。 	<p>図日常の事象や経験を基に、加法の問題やお話をつくらうとしている。</p> <p>図絵から加法の場面を見出したり、自分で場面を考えたりして、絵図や言葉で表現することができる。</p>

- 【単元の目標】 ○ 減法の意味と被減数が10以内の減法計算の仕方を考え理解し、確実にできるようにするとともに、それを用いることができるようにする。
- 関 ・ 日常の事象から求残や求補、求差の場面を見出し、式に表すよさに気づき、減法を適用しようとする。
 - 考 ・ 求残や求補、求差の場面を、どれも減法の関係として相互に関連づけてみることができる。
 - ・ 被減数が10以内の減法計算の仕方を1位数の構成に着目して考えたり、操作によって表現したりすることができる。
 - 技 ・ 被減数が10以内の減法計算が確実にできる。
 - 知 ・ 求残や求補、求差の場面など、減法が用いられる場合について知り、減法の意味を理解する。

☆考えて欲しいこと ★考え方

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
1	○求残の場合について、減法の意味や、式の表し方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ じょうろを棚から取っている絵や、ペン立てからペンを出している絵を見て、残りの数量を求める場面であることをとらえブロック操作で表す。 ・ 金魚を水槽から出している絵を見て、求残の場面であることを確かめ、その差の求め方を考える。 ・ ブロック操作で求残の場面を表す。 ・ 求残の場面を減法の式に表す。 ・ 用語「ひきざん」を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 関 日常の事象から求残の場面を見出して、ブロック操作を通して減法の式に表そうとしている。 関 求残の場合について、減法の意味や式の表し方を理解している。
2	○被減数が10以内の減法計算ができる。 ○求補の場合について、減法の意味を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 被減数が10以内の減法計算をする。 ・ うさぎが並んでいる絵を見て、全体の数と白いウサギの数から黒いウサギの数を求める場面であることをとらえ、答えの求め方を考える。 ・ ブロック操作で求補の意味を表す。 ・ 求補の場面を減法の式に表す。 <p>☆「とる」「すくう」「いなくなる」「たべる」は、みんななくなるのでひきざん。</p> <p>☆どの問題でもブロックの動かし方が同じ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 関 求補の場面を、減法の関係として求残の場面と関連づけてとらえ、ブロック操作や言葉などを用いて表現することができる。 関 求補の場面を減法の式に表すことができる。
3	○減法の計算能力を伸ばす。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計算カードを使って、被減数が10以内の減法計算の練習をする。 ・ 被減数と減数の並び方を見て空欄のカードを考えたり、同じ答えのカードを探したりする活動を通して、1つの数を2つの数の差としてとらえる。 <p>☆縦に見ると、後ろの数が順に大きくなる。</p> <p>☆横に見ると、前の数が順に大きくなる。</p> <p>☆斜めに見ると、後ろの数が順に大きくなる。</p> <p>☆後ろの数が1のひきざんが多くて、2, 3, 4…になるとひきざんの数がへる。</p> <p>☆たしざんと反対の階段になっている。</p> <p>☆縦に並んでいる式の答えは1ずつ小さくなって横に並んでいる式の答えは1ずつ大きくなる。</p> <p>☆同じ答えのカードが斜めに並んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 関 被減数が10以内の減法計算が確実にできる。
4	○0を含む減法の計算の意味	<ul style="list-style-type: none"> ・ 残ったイチゴの数を求める事象を0を含む 	<ul style="list-style-type: none"> 関 0を含む場合も減法の式に表せるこ

	を理解する。	減法の式に表し、その意味を理解する。	とを理解している。
5	○求差の場合について、減法の意味を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが2列に並んでいる絵を見て、1対1対応によって2量の多少を確かめ、その差の求め方を考える。 ・ブロック操作で求差の意味を考える。 ・求差の場面を減法の式に表す。 <p>★赤のブロックと白のブロックを線で引いて残った数が答え。 ☆「ちがい」だけど、組み合わせて余った分が「のこり」だからひきざん。</p>	<p>㊦ 日常の事象から求差の場面を見出して、ブロック操作を通して減法の式に表そうとしている。</p> <p>㊦ 求差の場面も減法の式に表せることを理解している。</p>
6	○文章題の解決を通して、求差の意味理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文や絵から、「どちらが何個多い」、「○△の数の違いは何個」の求答事項について考える。 ・ブロック操作で求差の場面であることを確かめ、減法の式に表す。 ・絵に線をひくなど1対1対応して、答えを確かめる。 <p>★ブロックを組み合わせて線で引いて残った分があまりだから、それが多い分になる。 ☆「どちらが何個多い」だけど、組み合わせて余った分が「のこり」だからひきざん。</p>	<p>㊦ 問題文から求差の場面を読み取り、減法の立式をして問題を解決することができる。</p>
7	○問題づくりによる式の読みを通して、減法の意味理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・p. 58の絵を見て、いろいろな観点で求残、求補、求差の場面をとらえ、$7-2$の式に合う問題をつくる。 ・[やってみよう] 減法の場面を式と絵で表し、発表する。 	<p>㊦ 日常の事象や経験を基に、減法の問題やお話をつくらうとしている。</p> <p>㊦ 絵から減法の場面を見出したり、自分で場面を考えたりして、絵図や言葉で表現することができる。</p>

6. 10より おおきい かず

【指導時数】 9 時間

- 【単元の目標】 ○ 40までの数について、個数の数え方、数の読み方、書き方、数の構成などを理解し、数を用いることができるようにする。
- ㊦ 10をひとまとまりにして数えるよさに気づき、ものの個数を数えようとする。
 - ・ 40までの数の構成を基に、数え方や計算の仕方などに活用しようとする。
 - ㊦ 40までの数を何十と端数がいくつとみて、数え方や読み方、書き方などを考え、表現することができる。
 - ・ 数の構成や既習の計算を活用して、20までの数の繰り上がりや繰り下がりのない加減計算の仕方を考え、表現することができる。
 - ㊦ 40までの数について数えることができ、数を読んだり書いたりすることができる。
 - ・ 20までの数の繰り上がりや繰り下がりのない加減計算ができる。
 - ㊦ 40までの数について、数の読み方や書き方、数の構成や大小などを理解する。
 - ・ 20までの数の構成を、加法や減法の式に表せることを理解する。

☆考えて欲しいこと ★考え方

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
1	○20までの数の数え方、唱え方を理解する。	<p>絵を見て、ヒマワリとハチ、チョウの数を数える。</p> <p>☆一つずつ数える。 ☆ブロックをのせる。</p>	<p>㊦ 20までの数について、「10のまとまりと端数がいくつ」とみて、数え方を工夫して考えようとしている。</p> <p>㊦ 20までの数について、数詞を唱え、</p>

		<p>☆2つずつ数える。</p> <p>☆5つずつ数える。</p> <p>☆10のまとまりで数える。</p> <p>☆数えた物をチェックしながら数える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒマワリは10と3で「じゅうさん」と読み、「13」と書くことを確認する。 ・ハチは10と6で「じゅうろく」と読み、「16」と書くことを確認する。 ・チョウは10と8で「じゅうはち」と読み、「18」と書くことを確認する。 ・20までの数を数え、数詞を唱える。 	数えることができる。
2	○20までの数の読み方、書き方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・絵を見て、あめや卵の数を数える。 ・10と9で19、10と10で20と書き表す。 ・下段の図を見て、20までの数を読んだり書いたりする。 	<p>図20までの数について、「10のまとまりといくつ」という構成になっていることを、ブロックと数字で表現することができる。</p> <p>図20までの数について数え方や数の読み方、書き方などを理解している。</p>
3	○20までの数の数え方の理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・絵を見て、クレヨンやカスタネット、ヒヨコなどの数を10のまとまりをつくって数える。 ・2個で1パックになっているヨーグルトや、1パックに5個入りのティッシュの数を、工夫して数える。 ・20までの数について、10といくつで構成されていることを確かめる。 ・バス停に人が並んでいる絵を見て、20までの数の順序数について考える。 <p>☆1つずつチェックして10になったら囲む。</p> <p>☆2つずつ数える。</p> <p>☆5つずつ数える。</p>	<p>図11～20個の具体物を、10といくつという見方を用いて、数え方を工夫している。</p> <p>図20までのものの数や順序について、正しく数えることができる。</p>
4	○20までの数の構成を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・20までの数の分解について、ブロックによる操作活動などを通して数で表す。 	図20までの数について、10といくつに分解することができる。
5	○数直線を知り、数が表せることや、20までの数についての大小や系列を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・図を見て、カエルやネコ、ウサギの跳んだ距離と位置を調べ、数直線上の動物の位置を数で表す。 ・数直線の特徴や性質を確認する。 <p>☆右に行くと数が大きくなり、左に行くと数が小さくなる。</p> <p>☆右の数のほうが左の数より大きい。</p> <p>☆まっすぐな線。</p> <p>☆始まりは「0」。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数直線を手がかりにして、20までの数の大小を考える。 	図数直線の特徴や性質（0が基点、等間隔の目盛り、左から右に順に1つずつ数が大きくなるなど）を理解している。
6		<ul style="list-style-type: none"> ・数直線を手がかりにして、20までの数の系列を考える。 ・数直線を見ながら、基準の数との大小、方向などを考える。 ・2とびで唱えたり、大きい数から小さい数 	

		の順に唱えたりする。	
7	○40までの数の数え方、読み方、書き方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 絵を見て、卵や数え棒、色紙、ペンの数を数える。 卵は20と3で「にじゅうさん」と読み、「23」と書くことを確認する。 20と6で26と書き表す。 色紙は10が3こで「さんじゅう」と読み、「30」と書くことを確認する。 30と4で34と書き表す。 40までの数について、数え棒の数を数えたり、カレンダーの数を讀んだりする。 	<p>図40までの数について、「何十と端数がいくつ」とみて、数え方や読み方、書き方などを考えている。</p> <p>図40までの数について数え方や読み方、書き方などを理解している。</p>
8	○20までの数の構成を和や差でとらえ、10と1位数の加法とその逆の減法をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 数の構成（10といくつ）に基づいて、$10+5$などの式に表し、計算の仕方を考える。 数の構成（10といくつ）に基づいて、$15-5$などの式に表し、計算の仕方を考える。 <p>★バラバラのブロックで計算すると分かる。</p>	<p>図10と1位数の加法や逆の減法の計算の仕方を、数の構成を基に考えようとしている。</p> <p>図20までの数の構成を、加減計算の式に表せることを理解している。</p>
9	○20までの数の構成を和や差でとらえ、 $12+3$ 、 $15-3$ などの計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 20までの数について、その数の構成に着目して、$12+3$や$15-3$などの式に表し、計算の仕方を考える。 <p>★前の学習の時と同じで、バラバラのブロックを使うと分かる。</p>	<p>図$12+3$、$15-3$などの計算の仕方を考え、操作や言葉などを用いて説明したり工夫したりしている。</p> <p>図$12+3$、$15-3$などの計算ができる。</p>

7. なんじ なんじはん

〔指導時数〕 1時間

【単元の目標】 ○時刻に関心をもち、時計から何時、何時半の時刻を読めるようにし、日常生活に生かすことができるようにする。

関・時刻を読み取り、日常生活に生かそうとする。

考・短針と長針の関係をとらえて、それぞれの針の位置で時刻が決まることを表現することができる。

技・何時、何時半の時刻を讀んだり、時計で表したりすることができる。

知・何時、何時半の時刻の読み方を理解する。

☆考えて欲しいこと ★考え方

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
1	○時計を見て、何時、何時半を読み取ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 絵を見て、1日の生活と関連づけながら何時、何時半の時刻を読む。 模型時計を使って、表された時刻を讀んだり、指示された時刻を表したりする（短針の読み取りに重点を置く）。 	<p>図時刻を、日常生活の活動と関連させて読もうとしている。</p> <p>図時計を見て時刻を読み取ったり、時計盤を用いて時刻を表したりすることができる。</p>

* おぼえているかな？

時数配当なし

—	○既習内容の理解を確認する。	・「おぼえているかな？」に取り組む。	図既習内容について解決の仕方を理解している。
---	----------------	--------------------	------------------------

- 【単元の目標】**
- 長さの比較などの活動を通して、長さや測定についての理解の基礎となる経験や、長さについての感覚を豊かにする。
 - 関・身の回りにあるものの長さに関心を持ち、比較の方法を工夫しようとし、長さを数値化することのよさに気づく。
 - 考・身の回りにあるものの長さについて、直接比較や間接比較、任意単位による測定などの方法を考えることができる。
 - 図・直接比較や間接比較、任意単位による測定などによって、長さを比べることができる。
 - 知・長さについての基礎的な意味や感覚を身につけ、比較や任意単位による測定の方法を理解する。

☆考えて欲しいこと ★考え方

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
1	○身の回りにあるものの長さに関心を持ち、直接比較や間接比較の方法で比べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・2本の鉛筆の長さの比べ方を考える。 ・2本のリボン、種類が違う3つの具体物（ひも、モール、ストロー）の長さの比べ方を考える。 ・直接比べることのできない長さ（便箋や色鉛筆ケースの縦、横の長さ）の比べ方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 関身の回りにあるものの長さに関心を持ち、比較の方法を工夫しようとしている。 関鉛筆やリボンなどの長さを、直接比較によって比べることができる。 関直接比較ができない長さは、媒介物を用いた間接比較によって比べられることを理解している。
2		<ul style="list-style-type: none"> ・長さの直接比較の仕方（一方の端をそろえて、曲がっているものはまっすぐに伸ばす）をまとめる。 ・便箋を折ったり、媒介物を用いたりすることによって、直接比べることのできない長さを比べられることをまとめる。 <p>☆はしをそろえたと比べられる。 ☆ピンと伸ばすと比べられる。 ☆指の幅で測る。</p>	
3	○前時までの学習をふまえ、身の回りにあるものの長さを間接比較の方法で比べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・紙テープに写し取った長さを黒板に貼って比べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 関間接比較によって長さを比べることができる。
4	○身の回りにあるものの長さは、任意単位のいくつ分としてとらえることで、数として表したり、比較したりできることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・p. 80の写真を見て話し合い、机の横の長さの比べ方を考える。 ・身の回りにあるものの長さを、指の幅や色鉛筆などを単位として「いくつ分」で表す。 <p>☆基にする物が違うと同じ「いくつ分」にならない。 ☆基にする物が小さいと「いくつ分」が多くなり、大きいと少なくなる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 関指の幅や色鉛筆などを単位とすれば、身の回りにあるものの長さを数値化して表せることを考え、言葉やものを用いて説明することができる。 関指の幅や色鉛筆などを単位として、身の回りにあるものの長さを数値化して表すことができる。
5		<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにあるものの長さを、ますを単位として「いくつ分」で表す。 	

* おぼえているかな？ 時数配当なし

－	○既習内容の理解を確認する。	・「おぼえているかな？」に取り組む。	関既習内容について解決の仕方を理解している。
---	----------------	--------------------	------------------------

【単元の目標】 ○ 3つの数の加減計算の仕方を考え理解し、確実にできるようにするとともに、それらを用いることができるようにする。

関・3つの数の加減計算の場面を1つの式に表すことのよさに気づく。

考・2つの数の加法や減法を基に、3つの数の計算の仕方を考え、表現することができる。

技・3つの数の加減計算の場面を1つの式に表し、その計算が確実にできる。

知・2つの数の加減計算を基に、3つの数の加減計算ができることを理解する。

☆考えて欲しいこと ★考え方

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
1	○3つの数の加法の式の意味を理解し、その計算をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ p. 83の絵を見て、式を考える。 ・ 3つの数の加法の場面を1つの式に表す。 ・ 2つの数の加法計算を基にして、3つの数の加法計算の仕方を考え、計算する。 <p>☆「のる」だからたしざん。 ☆前から順番に計算する。</p>	<p>関2つの数の加法を基に、3つの数の加法計算の仕方を考え、説明している。</p> <p>関3つの数の加法の場面を1つの式に表し、計算をすることができる。</p>
2	○3つの数の減法の式の意味を理解し、その計算をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ p. 84の絵を見て、式を考える。 ・ 3つの数の減法の場面を1つの式に表す。 ・ 2つの数の減法計算を基にして、3つの数の減法計算の仕方を考え、計算する。 <p>☆「おりる」だからひきざん。 ☆前から順番に計算する。 ☆後ろの2つの数をたしてから、一番前の数からひく。</p>	<p>関問題場面から数量の関係を読み取り、3つの数の減法の場面を1つの式に表そうとしている。</p> <p>関3つの数の減法の場面を1つの式に表し、計算をすることができる。</p>
3	○3つの数の加減混合の式の意味を理解し、その計算をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ p. 85の絵を見て式を考え、解決する。 ・ 3つの数の加減混合計算の場面を1つの式に表す。 ・ 3つの数の加減混合計算の仕方を考え、計算する。 <p>☆+と-が混ざっているけど、今までと同じに前から順番に計算する。</p>	<p>関2つの数の加法や減法を基に、3つの数の加減混合計算の仕方を考え、説明している。</p> <p>関3つの数の加減混合計算ができる。</p>
4	○答えが10になる3つの数の加法の式を考える活動を通して、3つの数の計算の理解を深める。	<p>[やってみよう]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ $\square + \square + \square = 10$になる式を考える。 ・ $\square + \square + \square = 9$になる式を考える。 <p>★2つの数のたしざんと考えて、どちらか一つを2つの数に分ける。 ★1つ数を決めて、決めた数と合わせると答えになる数を考え、合わせた数を2つの数に分ける。</p>	<p>関3つの数の加法計算で、和が10になる式を考え、説明している。</p>

- 【単元の目標】**
- 体積の比較などの活動を通して、体積とその測定についての理解の基礎となる経験や、体積についての感覚を豊かにする。
 - ㊦ 身の回りにある入れ物に入る水の体積に関心を持ち、比較の方法を工夫しようとし、体積を数値化することのよさに気づく。
 - ㊧ 身の回りにある入れ物に入る水の体積について、直接比較や間接比較、任意単位による測定などの方法を考えることができる。
 - ㊨ 直接比較や間接比較、任意単位による測定などによって、体積を比べることができる。
 - ㊩ 体積についての基礎的な意味や感覚を身につけ、保存性、比較の方法や任意単位による測定の方法を理解する。

☆考えて欲しいこと ★考え方

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
1	○身の回りにあるものの体積に関心を持ち、直接比較、間接比較の方法で比べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・水を形状の異なる容器に入れても、体積が変わらないことを確認する。 ・形の異なる2つの容器に入る水の体積の大小を比べる方法を考える。 <p>☆同じ形のものに入れる。</p> <p>☆基にするものをつかって「いくつ分」か数える。</p>	㊦身の回りにある入れ物に入る水の体積に関心を持ち、比較の方法を工夫しようとしている。 ㊦体積の大小を直接比較、間接比較の方法で比べることができる。
2		<ul style="list-style-type: none"> ・直接比較、間接比較の方法で体積を比べる。 	
3	○身の回りにあるものの体積を、任意単位を用いることによって、数として表したり、比較したりできることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・p. 89上の写真を見て話し合い、水の体積の比べ方を考える。 ・容器に入っている水の体積を、コップを単位として「いくつ分」で表す。 	㊦長さの学習を基に、体積も数値化して表すとよいことに気づき、その方法を考え、言葉や具体物を用いて説明している。 ㊦任意単位による体積の測定方法を理解している。
4		<ul style="list-style-type: none"> ・任意単位による比較の方法で体積を比べる。 	

* おぼえているかな？ 時数配当なし

—	○既習内容の理解を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「おぼえているかな？」に取り組む。 ・教師が示した1位数が書いてあるカードを見て、10に対する補数を答える活動に取り組む。 	㊦既習内容について解決の仕方を理解している
---	----------------	---	-----------------------

- 【単元の目標】 ○1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考え理解し、確実にできるようにするとともに、それを用いることができるようにする。
- 関・既習の加減計算や数の構成を基に、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考えようとしている。
- 考・1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考え、操作や言葉などを用いて表現したり工夫したりすることができる。
- 技・1位数どうしの繰り上がりのある加法計算が確実にできる。
- 知・10のまとまりに着目することで、繰り上がりのある加法計算ができることを理解する。

☆考えて欲しいこと ★考え方

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
1	○1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法（加数分解）を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・p.2の絵を見て、1位数どうしの加法の式を考え、未習の計算に関心をもつ。 ・「あわせてなんこ」を求める場面であることから、加法であることを考え、立式する。 ・9+4の計算の仕方を考える。 	<p>関既習の加減計算や数の構成を基に、9+4などの計算の仕方を考えようとしている。</p> <p>関9+4などの計算の仕方を考え、操作や言葉などを用いて説明することができる。</p>
2		<ul style="list-style-type: none"> ・加数分解による計算方法をまとめる。 ・加数分解の方法で9+3の計算をする。 ★ブロックを数える。 ★ブロックで10のまとまりを作って考える。 	
3	○前時までの学習をふまえ、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法の理解を確実にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・被加数が8の場合の計算の仕方を考える。 ・加数分解すると、10のまとまりがつくりやすいことについてまとめる。 	<p>関加数分解による計算が確実にできる。</p> <p>関被加数が8～5の場合でも、10のまとまりをつくれればよいことを理解している。</p>
4		<ul style="list-style-type: none"> ・被加数が9、8の場合の計算練習に取り組む。 	
5		<ul style="list-style-type: none"> ・被加数が7の場合の計算の仕方を考える。 ・計算練習に取り組む。 ★ブロックで前の数を10のまとまりを作って考える。 	
6	○1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、被加数を分解して計算する方法（被加数分解）があることを知り、計算の仕方についての理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・場面から加法であると判断して、立式する。 ・3+9の計算の仕方を考える。 ・被加数を分解した方が10のまとまりをつくりやすい場合もあることをまとめる。 	<p>関被加数、加数の大小に関係なく、10のまとまりをつくることに着目して計算の仕方を考え、言葉やブロック操作などによって説明している。</p> <p>関1位数どうしの繰り上がりのある加法計算は、10のまとまりをつくれればよいことを理解している。</p>
7		<ul style="list-style-type: none"> ・計算練習に取り組む。 ・文章題を解決する。 ★ブロックを使って、前や後ろの数を10のまとまりにして考える。 	
8 ～ 12	○加法の計算能力を伸ばす。	<ul style="list-style-type: none"> ・計算カードを用いたいろいろな活動を通して、繰り上がりのある1位数どうしの加法計算の練習をする。 ☆カードの並び方が縦に前の数が同じ。 ☆縦に見ると後ろの数は2から順番に並んでいる。 ☆横に見ると後ろの数が同じ数。 ☆斜めに見ると答えが同じ。 	<p>関1位数どうしの繰り上がりのある加法計算が確実にできる。</p>
13	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・「しあげ」に取り組む。 	<p>関基本的な学習内容を身につけている。</p>

- 【単元の目標】 ○身の回りにあるものの形についての観察や構成などの活動を通して、立体図形についての理解の基礎となる経験や感覚を豊かにする。
- 関・身の回りにあるものの形について、観察や構成・分解したり、形の特徴や機能をとらえたりしようとする。
- 考・身の回りにあるものの形について、形以外の属性を捨象して形を認めたり、立体の面の形に着目したりして、形の特徴や機能をとらえることができる。
- 技・身の回りにあるものの形について、その概形や特徴、機能をとらえ、分類することができる。
- 知・身の回りにあるものの形の観察などを通して、基本的な立体図形の特徴や機能をとらえ、図形についての豊かな感覚をもつ。

☆考えて欲しいこと ★考え方

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
1 ・ 2	○立体図形に親しむ。 ○箱などの身の回りの具体物の概形をとらえ、立体図形の特徴や機能を知る。	作りたい乗り物や建物などを決め、それらの概形や特徴をとらえる。 空き箱を積んだり重ねたりして作る。 いろいろな形のもの積んだり転がしたりして、立体図形の機能や特徴を調べる。 使ったものの特徴や機能について根拠をはっきりさせて説明する。 ☆箱が長いからキリンを作りました。 ☆たくさん積めるからおうちを作った。 ☆転がるから、車のタイヤにしました (筒状の箱)	関身の回りにあるものの形の特徴や機能を生かして、いろいろなものを作ろうとしている。 関身の回りにあるものの形について、その概形や特徴、機能を理解している。
3 本 時	○箱を仲間分けすることによって、立体図形の特徴をより深く理解することができる。	前時の活動を通して箱を整理するにはどうすればいいのか考える。 箱を形の特徴ごとに仲間分けをする。 ☆形にはいろいろある。 ☆仲間分けできる。 ☆平らなところと、丸いところがある。 ☆積み重ねやすいのは四角い箱。 ☆丸くて転がる形もある。	関色や大きさ、位置、材質などの属性を捨象して形に着目し、特徴や機能を言葉や具体物を用いて表現している。 関身の回りにあるものの形について、概形や機能、特徴から分類することができる。
4 ・ 5	○立体図形を構成する一部分に平面図形があることを知る。	教師が提示し、どの箱の、どの面を写し取ったものかを話し合う。 箱の面を写し取って、その形を生かした絵をかき、発表し合う。 ☆箱の形には、四角や丸がある。 ☆なぞれば、絵に描くことができる。	関立体図形の面の形に着目して、丸、三角、四角などを見出している。

- 【単元の目標】 ○11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を考え理解し、確実にできるようにするとともに、それを用いることができるようにする。
- 関・既習の減法計算や数の構成を基に、11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を考えようとしている。
- 考・11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を考え、操作や言葉などを用いて表現したり工夫したりすることができる。

技・11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算が確実にできる。

知・10のまとまりに着目することで、11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算ができることを理解する。

☆考えて欲しいこと ★考え方

時	目標	学習活動	おもな評価規準
1	○11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法(減加法)を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・p.16の絵を見て、減法の式を考え、未習の計算に関心をもつ。 ・場面を読み取り、立式をする。 ・13-9の計算の仕方を考える。 	㊦既習の加減計算や数の構成を基に13-9などの計算の仕方を考えようとしている。 ㊦13-9などの計算の仕方を考え、操作や言葉などを用いて説明することができる。
2		<ul style="list-style-type: none"> ・減加法による計算方法をまとめる。 ・ブロックなどを用いて12-9の計算の仕方を考える。 ☆12を10と2に分け、10から9を引いて答えを2にたす。 ☆ブロックで数える。 ☆数え棒を使う。	
3	○前時までの学習をふまえ、11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法(減加法)の理解を確実にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・減数が8の場合の計算の仕方を考える。 ・ブロックなどを用いて11-8の計算の仕方を考える。 ☆11を10と1に分け、10から8を引いて答えを1にたす。 ☆ブロックで数える。 ☆数え棒を使う。	㊦減加法による計算が確実にできる。 ㊦減数が8～5の場合でも、10のまとまりから1位数をひけばよいことを理解している。
4		<ul style="list-style-type: none"> ・減数が9、8の場合の計算練習に取り組む。 	
5		<ul style="list-style-type: none"> ・減数が7の場合の計算の仕方を考える。 ・計算練習に取り組む。 	
6	○11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、減数を分解して計算する方法(減々法)があることを知り、計算の仕方についての理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・場面を読み取り、立式をする。 ・12-3の計算の仕方を考える。 ・減々法による計算方法についてまとめる。 ☆今までと同じように計算する。 ☆10のまとまりから3を引いて2をたす。 ☆3を2と1に分け、12の2から2を引いて残った1をさらに引く。	㊦被減数や減数の大きさに関係なく、被減数を10のまとまりから1位数をひくことに着目して計算の仕方を考え、言葉やブロック操作などによって説明している。 ㊦11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算は、被減数を10のまとまりといくつに分けて考えればよいことを理解している。
7		<ul style="list-style-type: none"> ・計算練習に取り組む。 ・文章題を解決する。 	
8 5 12	○減法の計算能力を伸ばす。	<ul style="list-style-type: none"> ・計算カードを用いたいろいろな活動を通して、11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の練習をする。 ☆階段になっている。 ☆縦に後ろの数が順に増えている。 ☆斜めに見ると答えが同じ。 ☆横に見ると後ろの数が同じ数。	㊦11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算が確実にできる。
13	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。 ○減法について理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・「しあげ」に取り組む。 ・「おいこし げえむ」に取り組む。 	㊦基本的な学習内容を身につけている。 ㊦既習事項を適切に用いて、活動に取り組もうとしている。

* 「どんな けいさんになるのかな？」 2時間

1	○加法や減法を適用して問題を解決することを通して、演算を決定する能力を伸ばす。	・問題文を読み、それぞれどんな式を立てればよいかを考えて解決する。	㊦既習を活用して、どんな式で解決すればよいかを考えようとしている。 ㊦適切な立式をして、問題を解決することができる。
2		・絵を見て作問し、解決する。	

14. どちらがひろい

〔指導時数〕 1時間

【単元の目標】 ○面積の比較などの活動を通して、面積の概念や測定についての理解の基礎となる経験や面積についての感覚を豊かにする。

- ㊦ ・身の回りにあるものの面積に関心をもち、比較の方法を工夫しようとする。
- ㊧ ・面積をますのいくつ分の大きさとしてとらえ、数で表現することができる。
- ㊨ ・直接比較やますの数によって、面積を比べることができる。
- ㊩ ・面積についての基礎的な概念や量の大きさの感覚を身につける。

☆考えて欲しいこと ★考え方

時	目標	学習活動	おもな評価規準
1	○身の回りにあるものの面積に関心をもち、直接比較やますの数で比べることができる。	・レジャーシートなど、身の回りのものの面積を比べる。 ・面積の直接比較の方法を知り、実際に比較してみる。 ・掲示板上に貼られた掲示物の面積を、掲示物の数で比べる。 ・〔やってみよう〕陣取り遊びをして、面積をますの数で比べる。 ☆重ねる。 ☆ピンとする。 ☆大きそうな物を下に置いて重ねる。 ☆前にやった基にする物を決めて「いくつ分」か数える。	㊦面積に関心をもち、面積の比較の仕方を考えようとしている。 ㊦面積を直接比較で比べることができる。

* 「けいさんぴらみっど」 2時間

1	○既習事項を総合的に適用して問題を解決することを通して、既習内容の理解を確認する。	・ピラミッドの計算に取り組み、既習の加減計算の練習をする。	㊦計算ピラミッドに関心をもち、自分でいろいろな問題をつくらうとしている。 ㊦数を2つの数の和や差としてとらえ、計算ピラミッドの解決の仕方を考えている。
2		・p. 31下の問題に取り組み、数は2つの数の和や差としてとらえられることを確認する。	

* おぼえているかな？ 時数配当なし

—	○既習内容の理解を確認する。	・「おぼえているかな？」に取り組む。	㊦既習内容について解決の仕方を理解している
---	----------------	--------------------	-----------------------

◇ 3学期

15. おおきい かず

〔指導時数〕 16時間

- 【単元の目標】 ○ 2位数について、個数の数え方や数の読み方、書き方、数の構成などを理解し、数を用いることができるようにする。
- 関 ・ 10ずつまとめて数えることよさや十進位取り記数法のよさに気づき、ものの個数を数えたり表したりしようとする。
- ・ 2位数の構成を基に、数の見方や計算の仕方などに活用しようとしている。
- 考 ・ 既習の数の表し方の仕組みを基に、2位数の数え方や読み方、書き方などを考え、表現することができる。
- ・ 10を単位とする見方や数の構成、既習の計算を活用して、簡単な場合の2位数の加減計算の仕方を考え、表現することができる。
- 技 ・ 2位数や簡単な3位数について、個数を数えたり、数を読んだり書いたりすることができる。
- ・ 簡単な場合の2位数の加減計算ができる。
- 知 ・ 2位数や簡単な3位数について、数の読み方や書き方、数の構成や大小などを理解する。
- ・ 2位数の数の構成を、加法や減法の式に表せることを理解する。

☆考えて欲しいこと ★考え方

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
1	○2位数の数え方、唱え方や、位取りの原理と記数法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ p. 33の写真のゲームを行い、自分の取った数え棒の数の数え方を考える。 ・ 数えた数の表し方について話し合う。 ☆1本ずつチェックして数える。 ☆2本ずつ数える。 ☆5本ずつ数える。 ☆10のまとまりを作って数える。 	<ul style="list-style-type: none"> 関既習を基に、2位数の数え方や読み方、書き方などを考えている。 関2位数を書くことができる。 関位取り記数法は書く位置の違いを利用して表していることを理解している。
2		<ul style="list-style-type: none"> ・ 10のまとまりとばらに分けて表せばよいことをまとめ、位取り記数法を知る。 	
3	○2位数の数え方の理解を確実にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ p. 35の卵やペン、シールの数を数える。 ・ p. 36～37のみかんなどの数を、印をつけるなどの工夫をして数える。 	<ul style="list-style-type: none"> 関10ずつまとめて数えることよさに気づき、ものの数を数えようとしている。 関20より大きい個数を10ずつまとめて数えることができる。
4			
5	○2位数の構成を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブロックや位取り板で数を表す。 	<ul style="list-style-type: none"> 関2位数を、位取りに対応して10のまとまりの数と10未満の数の合成として考え、言葉や位取り板、ブロックなどを用いて表現している。
6	○100の唱え方、読み方、書き方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ p. 39のペンギンの数を数え、99の次は100と書き表すことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 関10が10こ集まると100になることを理解している。

7	○数表から数の並び方の規則性に気づき、数の規則性や構成の理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・0～100の数表を見て、気づいたことを発表する。 ・数表の数の並び方の規則性についてまとめる。 ・数表の数の並び方を用いて、数をあてる活動に取り組む。 <p>☆0から100まで順に並んでいる。 ☆縦に見ると10ずつ増える。 ☆横に見ると1ずつ増える。 ☆縦の数は1の位がみんな同じ。 ☆0から斜めに見ると10の位と1の位が同じ数。</p>	<p>図位の数字に着目するなどして数表の数の並び方のきまりを考え、言葉などで説明している。</p>
8	○100までの数の系列や大小を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・数直線を見て、100までの数と対応づける。 ・数直線を用いて数の系列や大小を確かめる。 	<p>図数直線を使って数を読んだり表したりすることができる。 図数直線と数に対応づける活動を通して、数の系列、大小を理解している。</p>
9	○具体物を数えることを通して、120程度までの数の唱え方や系列を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・p. 43の上段の棒の絵を見て、100とあといくつあるかを確かめる。 ・100と3で「ひゃくさん」と読み、「103」と書くことを知る。 ・120程度までの数の唱え方、並び方を知る。 	<p>図100より大きい数を数えたり唱えたりすることができる。 図100より大きい数について、100と1～2位数の合成ととらえればよいことを理解している。</p>
10	○2位数の数の構成(10がいくつ)を基にした加減計算の仕方を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・数の構成(10がいくつ)に基づいて、$50+20$や$60-20$などの式に表し、計算の仕方を考える。 <p>★10のまとまりで考える。</p>	<p>図何十±何十の計算の仕方を、10を単位として考え、具体物や言葉を用いて説明している。</p>
11	○2位数の数の構成(何十といくつ)を基にした加減計算の仕方を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・数の構成(何十といくつ)に基づいて、$30+5$、$35-5$などの式に表し、計算の仕方を考える。 	<p>図$30+5$、$35-5$などの計算は、数構成(何十といくつ)を基に考えればよいことを理解している。</p>
12	○繰り上がりや繰り下がりのない2位数と1位数との加減計算の仕方を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・2位数を位ごとに分解してとらえて一の位の数に着目し、$25+3$や$28-3$などの計算の仕方を考える。 <p>☆バラのブロックをたしたり引いたりすると答えが出る。</p>	<p>図$25+3$、$28-3$などの計算は、一の位のみに着目して考えればよいことを理解している。</p>
13・14	○身の回りにあるものの数に興味をもち、2位数の理解を確実にする。	<p>[やってみよう]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで「かずしらべ」に取り組む。 ・学校内にあるものの中から、120程度までのものを探し、その数を数える。 ・その数を確認し、表に記録する。 ・学級全体で発表し合う。 	<p>図身の回りにあるものの数に興味をもち、その数を数えようとしている。 図2位数の数のものを数えることができる。</p>
15	○100までの数について理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・「すごろくゲーム」に取り組む。 	<p>図既習事項を適切に用いて、活動に取り組もうとしている。</p>
16	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・「しあげ」に取り組む。 	<p>図基本的な学習内容を身につけている。</p>

*** おぼえているかな? 時数配当なし**

一	○既習内容の理解を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「おぼえているかな?」に取り組む。 	<p>図既習内容について解決の仕方を理解している。</p>
---	----------------	--	-------------------------------

16. なんじなんぷん

〔指導時数〕 2時間

【単元の目標】 ○時刻に関心をもち、時計から何時何分の時刻を読めるようにし、日常生活に生かすことができるようにする。

関・時刻を読み取り、日常生活に生かそうとする。

考・時計盤の目盛りは5とびであることを用いて、時刻の読み方を工夫して考えることができる。

技・何時何分の時刻を読んだり、時計に表したりすることができる。

知・何時何分の時刻の読み方を理解する。

☆考えて欲しいこと ★考え方

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
1	○時計を見て、時刻を読み取ることができる。	・絵を見て、1日の生活と関連づけながら時刻を読む（はじめは、10分刻みや5分刻みを中心に扱うようにする）。 *デジタルコンテンツがあります。	関時刻を日常生活の活動と関連させて読もうとしている。 関時計を見て時刻を読み取ったり、時計盤を用いて時刻を表したりすることができる。
2		・模型時計を使って、表された時刻を読んだり、指示された時刻を表したりする。	関時刻の読み方を理解している。

*「ビルをつくらう」 1時間

1	○数の乗法・除法的構成を理解する。	・12枚の色板でどんな長方形のビルができるか考える。 ・できたビルについて話し合う。 ・色板の枚数を変えて、ビルをつくる活動に取り組む。	関いろいろな形の長方形のビルをつくることを通して、12の乗法・除法的な構成を考え、式や言葉を用いて表現している。
---	-------------------	--	--

17. ずをつかって かんがえよう

〔指導時数〕 6時間

- 【単元の目標】
- 順序数や異種の数量を含む加減の場面，求大や求小の場面についても加減計算が適用できることを理解し，それを用いることができるようにする。
 - 関 ・ 順序数や異種の数量を含む加減の場面，求大や求小の場面を図に表すことのよさに気づき，図を用いて解決しようとする。
 - 考 ・ 順序数や異種の数量を含む加減の場面，求大や求小の場面を図に表し，問題の構造をとらえて考えることができる。
 - 技 ・ 順序数や異種の数量を含む加減の場面，求大や求小の場面を式に表し，解決することができる。
 - 知 ・ 順序数や異種の数量を含む加減の場面，求大や求小の場面の問題解決を通して，加減の意味を拡張して理解する。

☆考えて欲しいこと ★考え方

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
1	○ 順序数を集合数に置き換えると，加減法が適用できることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ①の問題文を読み，場面について考える。 ・ 図を基に問題の構造をとらえ，順序数を含む場合も加法が適用できることを考える。 ・ ②の問題文を読み，図を基に問題の構造をとらえ，立式して答えを求める。 ★ブロックを使って考える。 ★●などのブロックやおはじきの代わりになる物をかいて考える。 ☆前から6番目にいる＝前から6人いる。 ☆何番目のままでは計算できない。 	関図を用いて，順序数を含む加減計算の仕方を考え，説明することができる。 関順序数を含む場合も加減法の式に表して問題を解決することができる。
2	○ 異種の数量を同種の数量に置き換えると，加減法が適用できることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ③の問題文を読み，場面について考える。 ・ 図を基に問題の構造をとらえ，異種の数量の場合も加法が適用できることを考える。 ・ ④の問題文を読み，図を基に問題の構造をとらえ，立式して答えを求める。 ★図や絵をかいて考える。 ☆何人と何個、何台では計算できない。 ☆どちらかに合わせると計算できる。 	関異種の数量の場合について，図による1対1対応で同種の数量としてとらえ，加減の意味を拡張している。
3	○ 求大の場合について，加法が適用できることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題文を読み，場面について考える。 ・ 図を基に求大の構造をとらえ，立式について考える。 ・ 適用問題に取り組み，解決する。 ★図や絵をかいて考える。 	関求大の場合について，図から数量の関係を読み取り，加法の式に表して解決することができる。

4	○求小の場合について、減法が適用できることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文を読み、場面について考える。 ・図を基に求小の構造をとらえ、立式について考える。 ・適用問題に取り組み、解決する。 ★図や絵をかいて考える。 	図求小の場合について、図から数量の関係を読み取り、減法の式に表して解決することができる。
5	○場面を図に表して問題の構造をとらえ、問題解決の能力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文を読み、p.62の図の続きをかく。 ・図を基に問題の構造をとらえ、問題文の数値に1をたした数が答えになることを理解する。 ★図や絵をかいて考える。 	図図に表すことよさに気づき、図を用いて場面を表そうとしている。 図図を基に自分や他者の考えを、式や言葉を用いて表現している。
6		<ul style="list-style-type: none"> ・図を用いて1の意味について確かめたり、式から他者の考えを読み取って伝え合ったりする。 	

18. かたちづくり

【指導時数】5時間

【単元の目標】 ○身の回りにあるものの形を観察したり構成したりするなどの活動を通して、平面図形について理解の基礎となる経験や感覚を豊かにする。

関・身の回りにあるものの形に関心をもち、色板や棒を並べて、いろいろなものの形を作ろうとする。

考・色板などをずらしたり回したり裏返したりすることを通して、いろいろな形を構成・分解することを考えることができる。

技・色板や棒を並べて、いろいろなものの形を作ることができる。

知・身の回りにあるものの形の特徴をとらえることを通して、中空のものも中実のものと同じように見られることを理解する。

☆考えて欲しいこと ★考え方

時	目標	学習活動	おもな評価規準
1	○身の回りにあるものの形の特徴をとらえ、色板を並べていろいろな図形を作る活動を通して、図形への関心を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・p.64の絵を見て、形の構成に関心をもつ。 ・直角二等辺三角形の色板を使って、いろいろな形を構成する。 ☆色板2枚で四角や三角ができる。 ☆いろいろな三角ができる。 	図色板を使って、いろいろな形を作ろうとしたり形を変えようとしていたりしている。 図色板などをずらしたり回したり裏返したりすることを通して、いろいろな形を構成・分解することを考えている。
2		<ul style="list-style-type: none"> ・4枚の色板で基本図形を構成する。 ☆真四角ができる。 ☆いろいろな形ができる。 ・1枚だけ色板を動かして形を変えていく活動に取り組む。 ☆いろいろな動かし方がある。 	
3	○数え棒を並べたり格子点を直線で結んだりして、いろいろな図形を作る活動を通して、形を線でとらえることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に色板で作った形を基に、数え棒を並べて、いろいろな形を作る。 ☆三角は3本、四角は4本でできる。 ☆いろいろな形の四角ができる。 	図数え棒を使って、いろいろな形を作ることができる。 図直線で構成された形も、面で表された図形と同じように見られることを理解している。
4		<ul style="list-style-type: none"> ・格子点を直線で結んで、いろいろな形をかく。 ☆点を結んでも三角や四角ができる。 ☆三角は3つの点でできる。 ☆四角は4つの点でできる。 	
5	○外的な活動を通して学習内容の理解を深め、形についての興味・関心を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・[やってみよう]決められた枚数の色板で、いろいろな形を作る。 	図学習内容を適切に活用して、活動に取り組もうとしている。

* 「ばしょを あらわそう」 1時間

1	○数を用いた位置の表し方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・絵を見て, さとしさんのロッカーの位置の表し方を考える。 ・絵を見て, ロッカーの位置についての問題をつくる。 	関数と上下や左右の言葉を組み合わせて用いて, 位置を正確に表すことができる。
---	--------------------	---	--

* 1ねんの ふくしゅう 2時間

1 ・ 2	○既習内容の理解を確認する。	・問題を解決する。	関既習内容について解決の仕方を理解している。
-------------	----------------	-----------	------------------------